

# 表通り裏通り 小江戸のならわし番外編

# 後世に伝えたい川越

## 小江戸のならわしの光景

「小江戸のならわし」でご紹介した内容は、昭和十五年くらいまで、ごく普通に川越で見られた光景です。当時の一番街は、今より閑散としていて、静かでした。自動車ではなく、牛車を通っていました。今はありませんが、通りには共同の井戸があり、さまざまな用途で使つて

いました。

思えば、当時の人たちは今よりもゆつたりとした生活を送っていたと思います。

一年間の連載で紹介できなかった話に、大掃除の話があります。

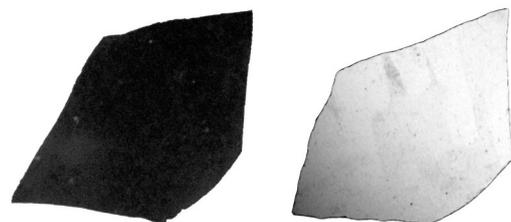
毎年春と秋の二回、決まった日にすべての家が掃除をしました。朝四時くらいから始まり、昼をすべて通りに出し

昨年四月からことし三月まで、毎月十日発行の広報川越で、川越ならではの礼儀作法などを「小江戸のならわし」として紹介してきました。十二回にわたり、お話を伺ってきたのは市文化財保護協会顧問の宮岡正一郎さん（80歳・幸町）。今回は、宮岡さんの話の原風景を番外編としてご紹介します。

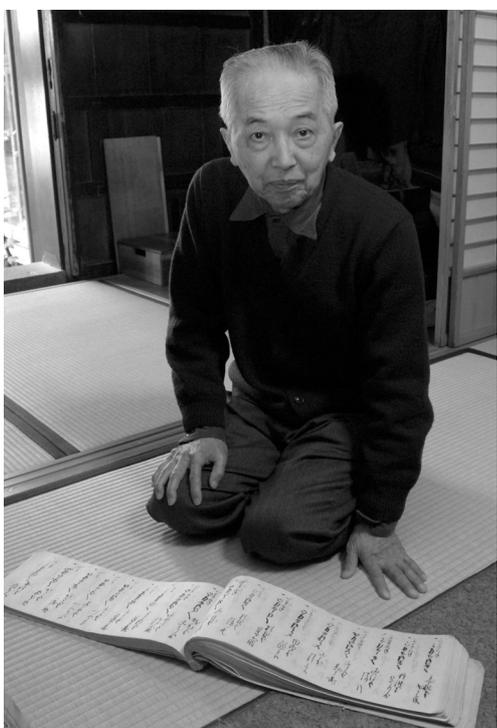
て干し、室内をくまなく、ぞうきんなどでふきました。通りは畳でいっぱいになり、人がやつと一人通れるくらいの幅になりました。当時は、車がほとんど通らなかつたので、できたのでしょうか。掃除が終わると、おそらく市役所からもらったのだと思います

## 歴史を知ること

古い物に興味を持ったのは、自宅にあった古い刀がきっかけだったと思います。昭和二十九年に奈良の国宝展を見てから、より歴史に強く引かれ、いろいろと調べるようになりました。三十年から四十年くらい前に、自分の先祖がどのような人だったのかと思い、自分の家にあつた文献や墓碑を参考に調べたことがあります。その結果、江戸時代の天和年間（一六八一〜一六八四）までさかのぼることができました。家の位置の変遷や屋号が変わっていたことなど、発見がありました。



明治26年の川越大火以後に作られた、蔵造りの壁の破片。左が表側で右が内側です。表側は特殊な加工を施した黒しつくいを塗り、きれいに磨いてありました。「鏡のようになっていたので、壁を見て、髪を整えることができました」と宮岡さん



先祖を調べたときに参考にした、天保年間のまちの記録を広げ、説明をする宮岡さん

川越ならではの礼儀作法など

### 小江戸のならわし・その一

子どもたちに対して

このコーナーでは、伝統ある川越のまちでの折目正しい応接について、お伝えします。私の育った昭和初年ころは、どの商店でも非常にことばづかいが丁寧で、たゞえ、米客が小さい子どもであっても、決してぞんざいな扱いはしませんでした。「何を差し上げようかから始まって、大人に対する応対と自分の違いもありません。初めて買った物や子どもにとっても、それがたいへん印象深く、やがて自分もそうするのがあるやうな意味では、ご近所がそのまま礼法の堂々でもあつたのでしよう。\*

市文化財保護協会会長・宮岡正一郎さんから伺った話を、広報室がまとめました。

広報川越に掲載していた「小江戸のならわし」。イラストの原案も宮岡さんが考えました

あります。その結果、江戸時代の天和年間（一六八一〜一六八四）までさかのぼることができました。家の位置の変遷や屋号が変わっていたことなど、発見がありました。時の流れでなくなつてしまつた物もありますが、川越は比較的古い物が残っているまちです。古い物を残してきた積み重ねが、今の川越の雰囲気をつくり出してきました。だからこそ、私たちも残っている物を後世に伝えていく必要があるのではないのでしょうか。そして、この川越の雰囲気や歴史を残していつまでも残っていると、思っています。

川越は歴史があるまちです。それぞれの家に歴史があるため、まちの中に行くと、古い物に接することができます。興味を持つと、おもしろい発見があります。

まちのできごと  
川越市の面積は109.16km<sup>2</sup>

# 109パレット

## 新しいふれあいの場誕生



竣工式でのテープカット

3月29日、新しい文化・コミュニティー活動の場となる、東部地域ふれあいセンターの竣工式が行われました。完成を祝ってのテープカット・式典の後、南古谷ウィンド・オーケストラの皆さんによる演奏が行われました。中学生から成人まで、およそ120人の皆さんが交代で5曲を披露し、同センターの完成に花を添えました。



最後の曲では、会場全体で盛り上がりました

## 小江戸に春がやってきた！

川越に春の訪れを告げる「第19回小江戸川越春まつり」のオープニングイベントが、3月29日に一番街周辺で行われました。開催式典のあと、民踊流し、マーチングバンド、木遣り・はしご乗り、和太鼓の演奏、川越地区消防組合消防音楽隊による演奏、川越藩火縄銃鉄砲隊の演武などが行われました。桜の花が見ごろを迎える中、会場周辺は多くの人たちでにぎわっていました。4月29日(祝)の川越れんげまつり2008や、5月3日(祝)・4日(祝)の小江戸川越緑日大会など、5月8日(休)までの期間中、市内各所でさまざまな催しが行われます。



和太鼓の音に合わせて民踊流しの列が進みます



高階南公民館の子ども映画会で、上映作品を説明する大河内会長(左)

三月二十二日、高階南公民館の土曜子ども映画会が行われました。この日は同クラブの会員三人が担当。上映一時間ほど前から、映画館で見ている雰囲気を感じてもらおうと、スクリーンや音響に気を配っていました。二十人ほどが集り、四作品が上映されたこの日。フィルム交換している間も、次の作品は何だろうかと期待を寄せ、映写室のほうを見る子どもたちの姿がありました。

「作品は、見に来る皆さんに合わせて考えています。見た方が思い出に残るような上映を、続けていきたいですね」と会長の大河内啓一さん(71歳・上新河岸)。その思いを引き継ぐ後継者の育成にも力を注いでいきたいと、同クラブの皆さんは考えています。

高階16ミリクラブは、およそ三十年前に結成。中央図書館で行っている、16ミリ映画機操作技術講習会を受講した高階地区の皆さんがメンバーです。年に十回ほど、公民館などで上映を行っています。



作品1本が終わるとフィルムを交換

川越びと 44